

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000417		
法人名	社会福祉法人 すばる		
事業所名	グループホームひだまり(ユニットA)		
所在地	江別市大麻北町608番地の3		
自己評価作成日	令和2年1月30日	評価結果市町村受理日	令和2年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171000417-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・建物は木造で古くなってきていますが、それが温かみのある、自宅での生活を感じられるような環境になっています。</p> <p>・入居者全体が高齢化してきているため、体を使った活動的な行事企画は少ないですが、個々人の状態を考慮した穏やかな生活を送ることができています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和2年3月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は同法人が運営する特別養護老人ホーム、グループホーム、デイサービスが隣接する広い敷地内にあり、秋祭り、避難訓練、会議、研修などを合同で行い情報を共有することで、質の高いケアに努めている。隣接する協力医療機関の往診や母体法人からの訪問看護など、医療支援が充実しており、定期的に訪れている理学・作業療法士からは個々の利用者に即した機能訓練を受けることができ、身体機能の維持と認知症の進行防止に積極的に取り組んでいる。毎月誕生会や季節に合った行事を設け、利用者と家族と一緒に楽しんだり、民謡などの地域ボランティアや中学生の職場体験、高校生のボランティアの来訪もあり、地域との繋がりに力を入れている。職員は明るく、一人ひとりに添ったきめ細やかな支援を心掛けており、利用者、家族とも良好な関係を築いている。管理者は職員の思いや働きやすい環境にも配慮しており、利用者、家族、職員すべてが笑顔で過ごせるよう、真摯に取り組む姿勢が見られる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			自己評価	実施状況	外部評価	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が共有できていない。 理念を再確認し、共有する必要がある。		法人理念に基づいた「グループホームひだまりが目指す家」を理念に掲げ、玄関や通路に掲示している。管理者と職員は重要事項説明書に書かれている事業目的に沿った支援を行っている。		昨年ステップ目標にしていた事業所独自の理念の作成に至っていないため、現状に即した事業所独自の理念を職員皆で考え、作成することを期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	近隣町内会との交流の機会がない。		町内会に加入していないが、民謡やレクリエーション、バイオリン、傾聴などのボランティア訪問を毎月受け入れたり、高校生のボランティア訪問の受け入れも行い、地域との交流を積極的に行っている。法人主催の秋祭りにも参加し、地域との繋がりを持てるようにしている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話による問い合わせや施設見学対応時に伝えるようにしている。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、利用者の状況や行事、事故報告などを行ったうえで様々な意見を頂き改善できるように実施、報告している。		地域包括支援センター職員、地域代表、認知症地域推進員、家族代表などが参加し、2か月に1度奇数月に開催している。利用者の状況、行事などの活動報告、介護事故の発生報告を行い、情報交換や助言を得てサービス向上に活かしている。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入居状況報告を行うとともに、担当部局の担当者とは情報交換や相談を必要時には行っている。		市の担当者とは毎月運営状況報告や認定申請などの相談を行い、地域包括支援センター職員とは運営推進会議出席時に情報の共有を行い、助言を得ている。			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で抑制廃止委員会を設置し、毎月担当職員が参加し、状況報告や検討を行っている。委員会の議事録は全職員に回覧している。また最低年1回は研修会を行っている。新規採用職員には採用時に身体拘束に関する研修を行っている。		法人全体で毎月行っている抑制廃止委員会に管理者と担当職員が参加し、状況を報告して話し合い、議事録の回覧を通じ職員全体で情報の共有と意識の向上に努め、採用時研修と年1回以上研修会を行って身体拘束をしないケアに努めている。安全の為部屋にはセンサーを設置している。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待に関する研修会を行うとともに、日頃から介護の状況を確認し、介護中のアザやけがに注意を払い、原因を洗い出すようにしている。					

グループホームひだまり(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修会に参加できなかった。 内部での勉強会も実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規の場合は事前に契約書を渡し説明を行い、入居当日に不明な点を確認するようにしている。 変更時には説明を行うとともに、不明な点を確認し、了承のうえ同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族の要望意見を聞いた場合は、都度職員と話し合い、対応できることはすぐに対応し、検討を要する場合は法人役員を含めた中で検討している。	利用者とは日々の関わりの中で表情や態度から意見要望を汲み取っている。家族とは来訪時や電話連絡時に意見要望を聞き取り、連絡ノートなどを活用し職員間で共有している。毎月ひだまり通信を家族に送付し、情報共有にも務めている。	ひだまり通信はイベント時の写真が多く個別のコメントが無いため、日常の様子や実施している機能訓練の様子など家族が知りたい情報をもう少し詳しく伝えることが出来る工夫を期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の会議や、日々の打合せの中で意見や提案を受け、職員全体の意見をまとめ、法人本部役員に報告、検討し対応している。	管理者は月ごとに行われる会議やミーティング、日々の打ち合わせで意見や要望を職員から聞き取り、運営に反映させている。管理者と職員は日常的に話しやすい関係にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が各職員の状況の把握に努め、個々の勤務条件や環境整備を代表者と相談しながら対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部及び内部の研修に参加できる機会を作るように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで作っている「あおいの会」で企画している「グループホーム交流会」に参加していたが、近年は役員を派遣できず参加できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族、関係機関からの情報を受け、職員が情報や本人家族の思いを共有し、早く施設に馴染めるように関係を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後にもこまめにご家族と連絡をとり、ご本人の情報を集めるようにするとともに、ご家族の意向を汲み取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、関係機関から情報を収集し、サービス内容を事前に検討してから受け入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の下準備、食器拭き、洗濯物たたみ、モップかけなどの作業をできる人には手伝ってもらうようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を企画し、家族にも行事内容を盛り上げてもらえるようにしている。 協力医療機関以外への通院は、ご家族で対応してもらうようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外で以前近所に住んでいた人とか知人という方が面会に来られても拒むことはしていない。	高齢化のため知人の来訪は減っているが、家族や知人の来訪時は居室やリビングでゆっくり過ごせるよう配慮している。2か月に1度理美容室が訪れている。家族と墓参りや外食を楽しむなど馴染みの関係を継続するための支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々人の状態を把握し、食事席の配置やレク参加について良好な関係が作れるように配慮している。		

グループホームひだまり(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方のご家族から相談、連絡があっても丁寧に対応している。また退院見込みがなく退所になった場合は、その後の経過を確認するため連絡を取るようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や問題行動といわれる行為の裏にどのような思いがあるのかを探り、検討対応している。	日常生活の中での会話や話し合い、表情などから利用者一人ひとりの意向や希望に添うよう家族と相談しながら支援している。担当職員を中心に、連絡ノートを活用し職員間で情報を共有している。意向の把握が難しい利用者には、本人本位で行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前訪問で家族等から情報を得るとともに、入所後もご家族と情報交換している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動に注意し、特徴的なことは記録し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々人の身体・精神状況を把握し、問題点・課題を検討しながら介護計画を作成している。	利用者、家族の意向を把握し、担当職員を含めた会議で問題点や課題を話し合い、6か月毎に計画担当者が介護計画を作成し家族の承認と確認印を得ている。変化があればその都度見直し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内サービスや協団法人のサービス、ボランティア団体、個人ボランティア等の協力を得ながら個々のニーズに対応できるよう検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で活動しているボランティアの協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医による訪問診療が月4回、訪問看護が週1回、精神科医師の訪問診療が週1回、皮膚科往診、歯科受診を随時行っている。	利用者、家族の意向を尊重し、家族の協力を得ながら利用者の状態を伝えるなどの受診支援を行っている。協力医療機関の往診や訪問看護が週1回行われており、精神科医の訪問や必要に応じて隣接する歯科医院への受診支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来所時に相談したり、休日・夜間は電話での相談・指示の対応をしてくれている。また平日の日中は協力医療機関の看護師が相談に対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはすぐにMSWと関わり、入院中や退院に向けての連絡相談体制を作るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約説明の中で、重度化・看取りの説明を行っている。状況によって主治医とともに今後の対応について話し合う場を設けるようにしている。	入居時に「重度化に関する対応指針及び同意書」に基づき説明し、家族の同意も得ている。看取りの経験は無いが内部研修は行っており、重度化が認められた場合は段階に応じて利用者、家族、主治医と話し合い、方針を共有して対応する体制を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時対応についてはマニュアル等で周知しているが、定期的な訓練・確認はできていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を隣接医療法人と協力体制のもと実施している。	年2回消防署指導の下での日中の地震想定訓練と、夜間想定火災避難訓練を行っている。災害対策は法人全体で取り組んでおり、福祉避難場所を敷地内にある特別養護老人ホームに指定し、法人が発電機を準備して非常時に備えるなど、冬季の停電も想定した対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	子ども扱いしたり、できないことを馬鹿にするような態度をとったり、スピーチロックをしない等の研修を行っている。	スピーチロックの研修を行い、職員全体で実践に取り組んでいる。利用者に応じた声掛けや接し方に努めており、一人ひとりの尊厳を大切にしている。利用者の要望を聞き取り、同性介助を心掛けている。個人情報に関わる書類の保管や管理にも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろんな場面で意向を確認したり、選択の判断を問うような対応をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間、食事の時間などは、できるだけその方の状況に合わせて柔軟に対応するように話し合いを持っているが、職員の都合に合わせて対応になることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットは一律同じではなく、その方にあったヘアスタイルをお願いしている。服装もなるべく以前の好みに合わせたり、夏物冬物の入れ替えなど気を配るように心がけている。		

グループホームひだまり(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食材、食べられない食材がある場合は別なものに変更している。年に数回、お寿司や鍋、お好み焼きなどの食事会を行っている。普段は食事介助者がいるため職員と一緒に食べる機会がない。	法人の特別養護老人ホームの管理栄養士が献立を作成し、利用者の好みやイベントに合わせて内容を変更している。誕生会や寿司、鍋などの食事会、畑で収穫した野菜も取り入れ、季節に合わせた食事を楽しむ工夫をしている。家族と外食を楽しむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェックを行って日々の健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は自菌や菌、自分でできる方・介助が必要な方など能力や状態に合わせて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力、状態に合わせて、パットやオムツ対応を検討したり、定時誘導でトイレでの排泄を続けられるように支援している。	排泄記録からパターンや習慣を把握し、さりげない声かけでトイレに誘導し、同性介助にも配慮しながら排泄の自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の促しや下剤の調整を個人の状態に合わせて行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おむね週2回の入浴ができるように、日々順番を決めて入浴を行っているが、個人の希望に合わせて行える状況にはなっていない。	週2回の入浴を基本として、1日2、3人の入浴支援を行い、曜日を決めずに利用者の体調や心理面を考慮し対応している。入浴剤の使用や同性介助の希望に添うなど、入浴を楽しむことができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食や昼食後に横になってもらったり、TVを見て就寝時間が遅くなる場合もあったり、遅く寝て朝起きられず朝食時間が合わなくなったりすることを容認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人に処方されている薬をすぐに確認できる場所に置いてあり、疑問や気になることがあれば調べられる体制にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまで行っていたであろう家事の部分で、その方の能力に合わせて手伝ってもらおうようにしている。 飲酒は健康や他の人に迷惑の掛からない範囲では自由だが、現在は希望がないため提供はしていない。喫煙はH29年4月から施設内禁煙としている。		

グループホームひだまり(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物など個別の希望に応じて外出の機会を企画したいという職員の希望があるが、職員の勤務体制が不十分なため実施できていない。	利用者の重度化に伴い外出を希望する利用者は減っているが、散歩やベンチでの日光浴を支援したり、ドライブでの花見を行っている。家族との外出や外泊の支援にも努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時でなければお金を使う場面がなく、日常生活中では管理能力に不安・問題があるため、この件での支援はできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという希望があるときに対応している。また家族から掛かってきて取り次ぐという対応もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じるような飾り付けや物を置いているが、不穏になるようなものや音は排除している。	メインリビングと食堂は一体化していて、明るく清潔に保たれ、居心地の良いリビングには多くの利用者が集い、思い思いの時間を過ごしている。大きな窓からは桜を見ることができ、季節を彩る飾り付けとともに生活の場として温かみのある雰囲気を作っている。メインリビング以外に2か所リビングがあり、家族や知人が複数人訪れてもゆっくり過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段皆さんが集うセンターリビングのほかにフロアの両サイドに椅子を置いたサイドリビングを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族と相談して馴染みのものを持ち込んでもらったり、ご本人が過ごしやすい環境にしている。	使い慣れた家具や仏壇などが置かれ、家族の写真や手作り品などを飾り、清潔で居心地よく安全に過ごせるよう工夫している。居室は家族が宿泊することも可能。定期的に訪れる理学(作業)療法士による上肢下肢の機能訓練を居室で受けることもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわかるように名札をつけたり、トイレの表示を目立つようにしたりしている。		